姫川水系直轄砂防事業の効果

国土交通省

松本砂防事務所

総雨量(mm)

- 姫川流域は、糸魚川-静岡構造線が中央に位置し地質が脆く、 降水量も多いため、過去から大規模な土砂災害が頻発
- 昭和34年9月の伊勢湾台風豪雨により白馬村松川等で発生した 大規模な土砂災害を契機として、昭和37年より直轄砂防事業 に着手し、砂防堰堤等の整備を推進

平成29年6月29日からの梅雨前線豪雨では、総雨量 約1,000mmを記録。これは、姫川流域で大規模な土砂災 害をもたらした、昭和34年豪雨の4.7倍、平成7年豪雨の <u>1.7倍</u>の雨量だが、<u>家屋被害はゼロ</u>。



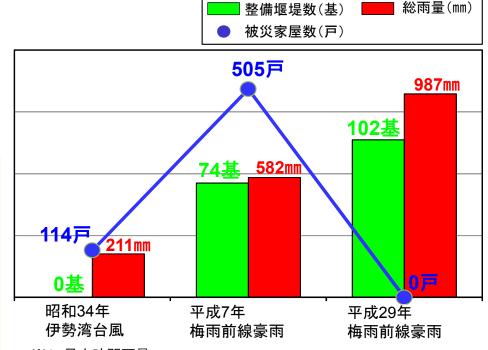
砂防堰堤等の整備を進めた結果、豪雨による土砂災 害の発生が抑制・防止され、被害が減少



家屋の流失・浸水等:114戸



家屋の全壊・浸水等:505戸



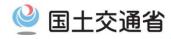
※1 最大時間雨量 昭和34年災害 33mm、平成7年災害 61mm、平成29年災害 28mm

※2 整備砂防堰堤数は直轄施設のみ

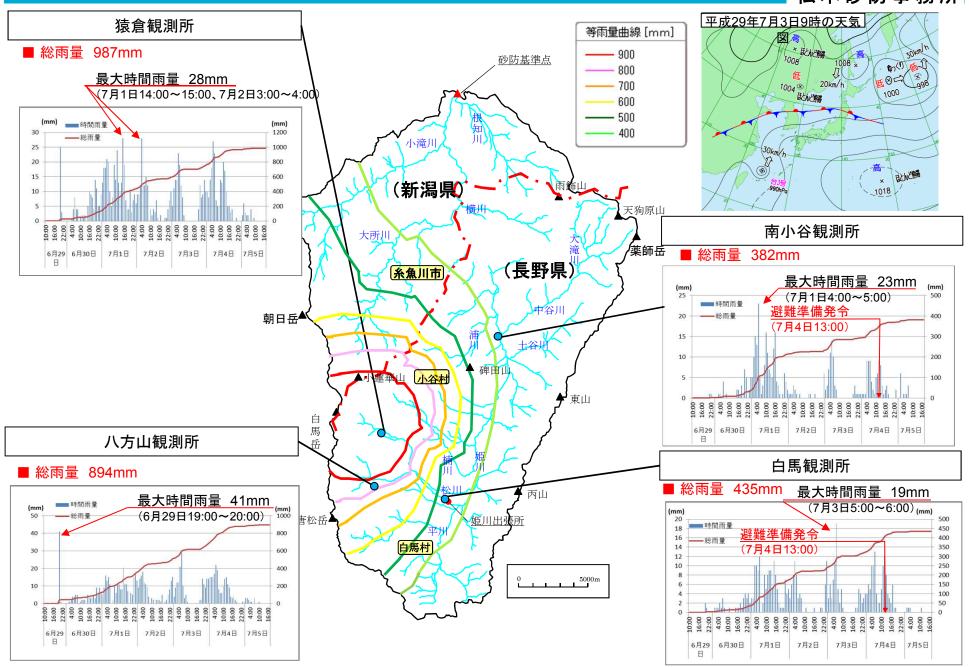


家屋の全壊・浸水等: 0戸

平成29年梅雨前線豪雨時の降雨状況 平成29年7月5日 17時時点



松本砂防事務所



○糸魚川 ○糸魚川市役所 姫川 姫川流域図 |道148号線唐沢洞門付近の道路被害状況 糸魚川市 新潟県 長野県 天狗原山 小谷村 ▲常津岳 放流に襲われたホテルと土砂に埋まった橋 小谷村役場の 災害時の孤立集落 白馬村白馬村役場。今日 JR大糸線 土石流に埋まった線路(北小谷深原) 楠川にえぐり取られた県道千国北城線

梅雨前線豪雨災害

南からの暖かく湿った空気と

梅雨前線がぶつかり、豪雨を

千沢で発生した土石流

7月11日~12日の合計降水量分布図

平成7年7月11日~12日 主な被災箇所

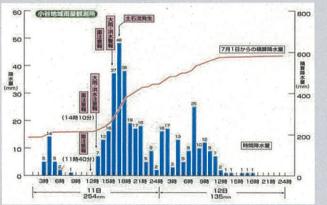
気象状況と災害の発生

7月11日から12日にかけて、姫川流域の白馬村、小 谷村などでは、200年に1度という豪雨が降りました。 またりせら せいだい じがん うりょう 特に小谷村では、最大時間雨量 48mm、2日間の連続 雨量389mmという記録的な降り方で、例年なら7月の 1か月間に降る雨が、1日半ほどで降ったことになります。

大災害となったのは、この大雨に加えて、7月になっ てずっと梅雨空が続いていたので、降った雨が蒸発せず、 地中にしみこんでいて、山の斜面を支える力が弱くなっ ていたためです。11日から12日にかけて降った大雨は、 perio できまい 姫川を増水させる一方で、山を崩して、いたるところで 生せた ひゅう 土石流を発生させました。そして、山を駆けおりた土石 ೄは、姫川に流れ込んで川底を上昇させ(最大10m/ 糸魚川市平岩地区)、災害を拡大する原因となりました。

姫川流域では多数の土砂災害が発生しましたが、地 域住民の人命が失われることはありませんでした。

7月11日~12日の雨量経過図





激流となった姫川(白馬大池駅前)

崩壊した小谷村北小谷の下寺洞門

姫川流域の市・村の被害状況

小滝川合流部の状況

| | 人的被害 | 住家破壊 | | | | | | | | | | | | | | | 非住家 |
|------|------|------|------|-----|----|-----|-----|------|-----|----|------|------|------|------|-------|------|-----|
| | | 全壊 | | | 半壊 | | | 一部破壊 | | | 床上浸水 | | | 床下浸水 | | | 被害 |
| 小谷村 | なし | 28棟 | 27世帯 | 82人 | 7棟 | 7世帯 | 38人 | | なし | | 32棟 | 33世帯 | 116人 | 154棟 | 160世帯 | 508人 | 88棟 |
| 白馬村 | なし | なし | | | なし | | | なし | | | 1棟 | 1世帯 | 1人 | 49棟 | 49世帯 | 208人 | なし |
| 糸魚川市 | なし | 13棟 | 14世帯 | 31人 | 4棟 | 6世帯 | 10人 | 1棟 | 1世帯 | 7人 | 45棟 | 46世帯 | 143人 | 171棟 | 171世帯 | 548人 | なし |